

人権作文に学ぶ



人権は、「誰か」のことではありません。今回は、ある出来事をきっかけに、障がいのある人のことをはじめさまざまな人権のことを「自分事」として捉えた川崎菜月さん(執筆当時立花中学校3年生)の作文から、誰もが人権を尊重される社会のために自分にできることは何か、一人一人が考えてみましょう。

「誰もが生きやすい社会であるために」



▲聴覚障害者標識

緑の円い形に黄色い蝶が描かれたマークを見かけたことはありますか。そして、

それが何を意味しているのか知っていますか。私はそのマークを知りきっかけとなったのは、私の姉がつけ始めたことからです。それまで私は、車のマークのことはほとんど知らず、緑と黄色の初心者マークや高齢者マークを知っているくらいでした。姉がこのマークを使い始めたことで、私の見る世界が変わりました。

姉がつけていたマークというのは「聴覚障害者標識」といわれるものでした。姉はもともと耳が聞こえないわけではないのに、どうしてこのマークをつけるのだらうかと思いついてみると、耳が全く聞こえないという人だけではなく、姉のように片耳もしくは両耳が聞こえづらい方にも使われているよ

うです。また、左右対称の耳の形が描かれたこのマークは、聴くの「聴」と生き物の「蝶」をかけてこの形になったという説もあり、聴覚に障害があっても自由に飛べるようにという願いも込められているそうです。

この「聴覚障害者標識」をつけている姉の車に同乗した時に、考えさせられるある出来事がありました。それは、姉の運転する車で買い物に行った時のことです。信号待ちで停車していると、前方から自転車で乗った四人の中学生ぐらゐの男の子たちが、私たちの方をじろじろ見ながら通り過ぎて行きました。私が

「めっちゃ見てくるね。何かあるのやか。」

と言ってきたきよるきよる周りを始めると姉が「この蝶々のマークが珍しいけん。」

とつぶやきました。その時は聞き流したし、姉も全く気にしていないような素振りを見せていたけれど、内心は傷ついているのかもしれない。

【聴覚障害者標識】

危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行うことは道路交通法で禁止されています。

ないと思いました。でもそれを悟られないように、見られないように振る舞っている姉がいました。

その時の姉の表情が忘れられなくて数日後、姉にマークをつけていて困ったことがあったのかを聞いてみました。

「多少、あおられるのはあったかな。」

と言って、後ろからくる車が、姉の車に必要以上に迫ってきた時のことを話してくれました。けれども、逆につけていてよかったこともあったそうです。通りに出ようとした時に、ゆずってもらったことなどです。また、姉はこんなことも話してくれました。救急車がサイレンをならして走っていて、ある人は救急車の音が聞こえづらゐから、みんながなぜよけているのか分からずにいた時に、たまたまいた警察の車が追ってきて知らせてくれたそうです。姉の場合は、片耳が聞こえないだけで、車に同乗者がいる時に救急車が来たら、肩をトントンしたりして合図をしてもらうことで安心して車の運転ができるそうです。このような思いは姉だけではなく、マークをつけている人たちの多くがそう思っているのかもしれない。

もしもマークの意味を知っていたら、その人に寄り添えるような行動をとることができるけれども、知らなかったら、どういう役割

かも知らずに相手を嫌な気持ちにさせてしまうかもしれません。そういうことから障害者差別が始まるのだと思います。

現在でも障害者差別をはじめ、人種差別などの様々な差別・偏見があります。差別・偏見は人間の身勝手な解釈によって生まれたものだと思います。もう二度と傷つく人がいなくなるためにも、私たちが、いろいろな人権について深く理解する必要があると思います。そして、差別することのおかしさに気づくことが大切です。人は、幸せにする力を持っています。将来をどのように過ごしていくのかは、私たち次第です。ぜひ、これからの社会は、人と人が手を取り合い、助け合っていく社会になれば、本当に誰もが生きやすい社会になれるのではないのでしょうか。

第3回人権セミナー 八女2023

LGBTQを含む性の多様性について一緒に考えてみませんか。

●日時 9月21日(木)19時～20時30分

●場所 〓おりなす八女

●講師 〓荒牧明楽さん

●演題 〓性の多様性とアンコンシャスバイアス

●申込不要、参加無料。詳細についてはチラシやホームページをご参照ください。

